

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320144

研究課題名(和文)六朝隋唐時代をめぐる仏教社会基層構造の解明と仏教石刻資料データベースの構築

研究課題名(英文)An Explanation of Basic Structure of Buddhist Societies of the Six Dynasties and Sui-Tang Period and the Construction of Databases on Buddhist Sources in Stone

研究代表者

気賀沢 保規(kegasawa, yasunori)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：10100918

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,200,000円、(間接経費) 4,260,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、魏晋南北朝隋唐時代の本質が「仏教社会」であるとの認識に立って、その社会の構造や特質を、仏教石刻(主に文字資料)を通じて明らかにすることにある。本研究では、(1)房山石経、(2)山西・河北仏教石刻、(3)四川仏教石経、(4)華北仏教石刻の4本の柱を立て、現地調査や資料整理と考察を進めた。(1)では4千点以上の隋唐石経の所在状況と題記を整理し、(2)では山西長治地区の仏教に焦点を当て、(3)では洛陽の石刻資料の把握に努め、(4)では四川灌県の仏教石経の所在に迫った。当時の仏教社会の基層を浮き彫りにするにはなお研究の深化が必要となるが、多くの成果により基礎的作業はほぼ終了したと考える。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research is to elucidate the structure and characteristics of the societies of Six Dynasties and Sui-Tang, based on a recognition that these were essentially Buddhist societies, by examining Buddhist sources in stone. This research advances study of the 4 pillars, 1) the stone sutras of Fangshan, 2) stone inscriptions of Buddhist sources in Shanxi, 3) stone sutras of Sichuan, and 4) the stone inscriptions of Northern China, through fieldwork and organization of source materials. As 1), location and titles of over 4,000 stone scriptures from Sui-Tang period were organized. As 2), the focus was set on the Buddhism of Changzhi district of Shanxi. As 3), we grasped the stone inscriptions of Luoyang. As 4), we tried to confirm the locations of the stone sutras of Guanxian in Sichuan. Further deep research will be necessary until the structure of the Buddhist societies of the time period is clarified, but I believe the basic work has been completed as the multiple fruits of this research.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学 東洋史

キーワード：中国仏教社会 房山石経 山西仏教 四川仏教石経 墓誌銘 北齊仏教石刻 巡礼 節度使

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 仏教は紀元前後に中国に伝来した後、長く民間信仰や外来の哲学思想といった扱いを経たのち、魏晉南北朝に進むころから、現実の苦しみに応える宗教として、人々の心を捉え信奉され、中国仏教としての足場を築くことになる。そして6世紀半ばの北朝後期に、末法思想の影響の下で中国社会に根ざした新たな仏教を創出させ、それが隋唐仏教へと繋がり、東アジア仏教へと展開する。

(2) 中国世界における長い仏教受容の過程は、仏教の論理と語彙を理解し、中国の風土や体制に合致する宗教に改変する歴史であり、「漢訳仏教(仏典)」の発展史ともいい換えることができる。その長い受容史を通じて仏教は民衆社会に深く浸透し、日常生活や思考領域、家族関係や行動規範などに大きな影響を与えるに至ったと考えられる。

(3) 当時仏教が社会や人々の生活に与えた影響を考える時、重要な手がかりを与えるのが石に刻まれた仏教系資料となる。造像碑や邑義碑や仏教石経などがその中心になるが、一般の墓誌類にも仏教信仰を知る手がかりが残される。

(4) だがそれらの資料を系統的に押さえる試みは必ずしも多くない。まして近年経済開発の進展にともない新たな資料の発見が相次ぐ一方、盗掘と開発による破壊も急ピッチであり、資料の収集と整理も緊急の課題となっている。

(5) 研究代表者(気賀沢)は仏教石経である「房山石経」の整理や「唐代墓誌所在総目録」の編集などの実績、また山東仏教石刻の調査研究を通じて、仏教石刻の重要性と緊急性を認識し、近接する研究者と日頃から連携をとってきた。仏教石刻を通じて新たな時代像を提示したいという認識を共有している。

## 2. 研究の目的

(1) 六朝(魏晉南北朝)から隋唐にかけての時代(3世紀~9世紀)は、仏教が中国史上もっとも光彩を放った時期であり、この時期に仏教は外来宗教から脱皮し、中国仏教(漢訳仏教)へと変貌をとげ、社会の隅々まで浸透し、単なる信仰のレベルを越えた時代の本質ないし特質となったと認識される。本研究はこのあり方を「仏教社会」と規定し、それに立脚する当該時代を前後の時代と区分して「中国中世」と位置付ける。

(2) 「仏教社会」を明らかにする手がかりは、石に刻まれた様々の資料の上に刻印されている。本研究では主に文字資料に注目し、現地調査と収集資料を一体化させて、当時の仏教の姿、地域社会との関係の考察を進める。あわせて資料の整理とデータ化に努め、次の研究者につなぐ試みを行う。

(3) この研究において中心の柱に据えるのは「房山石経」研究であり、とくに「隋唐刻経」とよばれる石経約4千点を全面的に整理し、刻経事業を支援した地域社会や唐

後半に登場する「巡礼」者の姿を明らかにしたい。その先には唐代の地域仏教社会の様態が浮かび上がることを見通している。

(4) 本研究では北朝・隋唐期における山西地区の仏教と地域社会との関係にも注目している。この地域は従来十分な系統的調査と研究が進んでおらず、しかし一方で五台山を始め仏教寺院や遺跡が多いことが知られているからである。できるだけその地に踏みこみ、広く資料を収集し多くの情報を得、仏教社会の具体像が描けないか試みる。

(5) 四川地区にあっては唐代各地に仏教石経が作成されたことが知られており、近年この資料の存在と考察に関心が向けられつつある。だが風化が進みまた保存が悪く、史料としての活用が図られていない。この資料状況に一步踏み込み、今後の四川における仏教社会を研究する手がかりを得る。

(6) 本研究にとって直接仏教石刻とはならないが、墓誌資料も貴重な材料と考える。その立場から仏教資料の整理と並行して、当該期の墓誌の調査・把握と整理にも力を入れることになる。仏教石刻や墓誌を整理した成果は、印刷物にして利用の便を図ると同時に、HP(明治大学東アジア石刻文物研究所)を通じて情報発信に努める。

## 3. 研究の方法

(1) 研究では大きく4つの柱を立て、それぞれを担当を定め、研究のとりまとめに努める。

4本柱と担当者は以下ようになる。

房山石経：気賀沢保規・櫻井智美

山西仏教石刻：高瀬奈津子・江川式部・気賀沢

四川仏教石刻：肥田路美・(気賀沢)

華北仏教石刻：高橋継男・手島一真・松浦典弘・気賀沢

連携・発信：気賀沢・江川

(2) 房山石経研究：房山雲居寺の前の石経山には9つの洞窟に隋唐・遼代に刻された石経(碑)が、碎片も含めると5千点近く収蔵される。気賀沢は2000年に刊行されたその「隋唐刻経」5冊と「遼金刻経 大般若経」1冊を手がかりに、全経典の把握と刻印された題記を整理し、そこから隋唐時代の仏教社会の特質と変遷の解明に努める。また関連して新たな資料発掘と公開を試みる。

(3) 山西仏教石刻研究：中国側の山西地区文物関係者と連携をとり、仏教関係遺跡とその周辺に所在する仏教石刻資料の調査と把握に努める。とくにより具体的に山西仏教社会の姿を浮き彫りにするために、特定の地点を定め、地理・地政、交通、文物などの諸面を組み合わせる試みを行う。具体的に従来手がけられたことのない山西東南部の長治地区を対象にする。

(4) 四川仏教石刻研究：四川における仏教石経事業は唐代に入って全土に広まったことが、その遺跡の所在からわかっている。しかし具体的には安岳臥仏溝石経をめぐる

整理とデータ化および考察は進んでいるが、それ以外の研究が進んでいない。本研究ではもう一方の代表格となる灌県靈岩山石経に当面重点を置いて考察する。並行して安岳石経の位置づけにも踏み込む計画である。

(5) 華北仏教石刻研究：この「華北」は主に河北・山西・河南の3省を指し、省域に限定せずに遺跡・資料の調査に当たるとともに、墓誌関係資料の整理と考察に努める。

(6) 本研究は現地調査に共同で動くところと各人の課題に基づいて個別に行動（研究）するところの、2本立てをとっている。そのため研究者間の横のまとまりをとるために、年に2-3回定期的に集まり、研究の進行状態を報告する。その上で最終年度には公開のシンポジウムを開催し、研究成果に繋げる。

(7) この科研費では魏晉南北朝から隋唐時代の石刻資料とその情報を集積し、広く学界に供することが期待されている。そのための基盤を明治大学東アジア石刻文物研究所に置き、ホームページで情報発信に努めるとともに、研究所の定期雑誌「東アジア石刻研究」（年刊）に毎年度の成果と調査記録を報告し、情報と知見を交換する場に提供する。

#### 4. 研究成果

(1) 房山石経の「隋唐刻経」については、經典一つ一つにあたり、石経山9洞のそれぞれにどのような經典が収められるか、經典名、訳者名、数量（石板数）、刻経年など詳細な関連データをつけた目録を作成した（「石経山九洞所蔵隋唐石経目録」『東アジア石刻研究』3）。これは過去にない仕事であり、今後の「隋唐刻経」をめぐる考察に足がかりを与える。参考までに第1洞所蔵の經典一覧を掲げておく（表1参照）。

(2) 「隋唐刻経」は在地や地方政界の有力者のほか、都市や農村の庶民たちの支援を受けながら進められたと推定される。それを裏付ける手がかりが石経に刻まれた「題記」となる。とくに唐玄宗の天宝年間から着手された「大般若経」600巻は、唐末まで連綿と刻り継がれても完成しなかったが、その間様々な支援が現れ、時代や仏教社会の一端を垣間見せることになる。本研究ではその「大般若経」の刻経の全容と全プロセスを押さえ、事業に関与した幽州都市民（行と社）や安祿山以下の歴代節度使と周辺関係者、後に現れる「巡礼者」の存在に注目した（表2参照）。

(3) 右にもふれたように、唐後半期に新たに姿を現し刻経事業を支援する存在に、「巡礼」がいた。本研究では初めてその存在に注目し、関係する史料（題記）の把握に努めた。その関係で中国国家図書館金石部門と連携をとり、原拓本の調査と写真データの入手に努め、「房山雲居寺石経題記資料集稿」「巡礼題記」拓本・録文篇」をまとめた。「巡礼（者・団）なる存在は、中国史の分野で過去に注目されたことはなく、これが新たな問題提起となることを期待する。

（表1）石経山第1洞所蔵經典

第一洞	經典名	巻数	譯者名	巻数	房山石経頁数	備考	刻経年代
1	菩薩戒法 羯磨文	1巻	唐玄奘	2	415 ~ 416	片面?	唐
2	妙法蓮華 經	殘石	姚秦鳩 摩羅什	3	373 ~ 374		唐
3	妙法蓮華 經觀世音 菩薩普門 品第二十 五	殘石	姚秦鳩 摩羅什	3	427	1洞24 中・台 では1 洞 1024	開成5 (840)
4	般若波羅 蜜多心經	1巻	唐玄奘	3	444 ~ 445	1洞 537	會昌2 (842)
5	大般若波 羅蜜多經	600 巻	唐玄奘			別表	唐、遼

（表2）大般若経（隋唐分）と都市住民題記

西暦	総枚数	題記数(條)	行	店	社	邑	社 / 邑
742~755	488	341	77	6	30	63	37
756~762	58	52	0	0	0	14	0
763~779	55	35+面背側	2	0	0	6	0
780~784	44	37	6	0	1	13	2
785~804	283	260+側	22	0	7	107	4
805	0						
806~820	76	61+側側	1	0	1	21	0
821~824	2	1	0	0	0	0	0
825~826	12	10	0	0	0	2	0
827~840	43	45+面側側、 面背側側	0	1	0	6	1
841~846	1	1					
847~859	0						
860~874	11	8	0	0	0	0	0
874~884 ~894	25	10+面背側、 面背側側	0	2	1	4	0
總計	1098	861+	108	9	40	236	44

(4)山西調査では中央部の太原から南側一帯、とくに南東部の長治市一帯(唐代の潞州)に目を向けた。この付近は従来十分調査がなされず、踏み込んで考えるべき仏教遺物の存在も確認された。この地はまた唐代後半期、昭義軍(澤潞)節度使の拠点となり、地政学的に重要な位置を占める。またこの地を中心に唐代墓誌が大量に出土したことを確認しており、多くは西安碑林に移動されたが、本研究では他にも当地出土墓誌の拓本を多数入手した。そこで仏教と地域の関係を考える対象を長治地区にしぼり、歴史・地理・交通路・仏教文物・墓誌など諸方面から集中的に整理を進めた。まだ作業と考察は完了していないが、その一端を成果として発表する。

(5)四川仏教石経で当初調査を予定した灌県靈岩山石経は、民国年間に発見された後ほとんどが散逸し、現在所在が分からなくなっており、一部残された拓本から経典名を確認できた。その他四川石経にはよくわからないところが多く、やはり安岳石経の存在感、四川仏教に占める重要性が改めて意識されることになって。現在、安岳石経調査は四川省と成都市の文物部門、およびドイツ・ハイデルベルク隊が主に関わっており、それらのデータが出揃ったところをまっぴら本格的に取り組むことを計画している。

(6)仏教石刻資料に目を向けることに関連して、華北石刻部門では、石刻資料を整理する前提となる「中国石刻関係図書目録(2008-2012前半)稿」や「唐代墓誌所在総合目録(四訂版)」を出し、また「中国洛陽出土唐代墓誌史料彙編」や「山西長治地区墓誌資料集(仮題)」の刊行準備を進めている。

(7)2011年秋に、新発見百濟人墓誌「祢軍墓誌」(678年)に「日本」の語があることが紹介され、2012年2月25日に国際シンポジウムを開催した。構成は以下ようになる。

- 1 趣旨説明 吉村武彦(明治大学)
- 2 百濟人祢氏墓誌の全容とその意義・課題 気賀沢保規(明治大学)
- 3 唐代百濟祢氏家族墓の発見と世系に関する考察 張全民(西安市文物保護考古研究院)
- 4「祢軍墓誌」と「日本」国号問題 王連龍(吉林大学)
- 5 百濟・朝鮮史における祢氏の位置 田中俊明(滋賀県立大学)
- 6 唐朝治下の百濟人の動向と新発見墓誌 金子修一(國學院大學)
- 7 白村江以後の「日本」国号問題 「祢軍墓誌」の発見に寄せて 小林敏男(大東文化大学)
- 8 集約と質疑応答 コメンテーター・榎本淳一(工学院大学)

(8)石刻研究に関わって、研究期間中、年1回の計4回、全国規模の研究報告会「中国合同石刻研究会」を主催した。

第3回:2010年7月24日 報告者7名(うち1名は韓国研究者・沈慶昊氏(高麗大))

第4回:2011年7月30日 報告者8名(うち

1名は中国研究者・毛陽光氏(洛陽師範学院))

第5回:2012年7月28日 報告者8名(うち1名は中国研究者・王其樟氏(西安碑林博))

第6回:2014年2月28日 報告者4名(うち1名は中国研究者・夏炎氏(南開大学))

(9)研究全体の成果は、最終年度に次のように公開報告会において提示した。

2013年1月13日(日)10時 18時開催

第1部(10時-12時)「華北各地の仏教と石刻文物の調査報告」

1 江川式部(明治大学):河北・山西の仏教遺跡と石刻文物の調査報告

2 手島一真(立正大学):河南・浙江の仏教石刻調査報告

3 櫻井智美(明治大学):中国における蒙元時代(モンゴル時代)石刻研究の最前線

第2部(13時-15時)(研究報告)

4 高瀬奈津子(札幌大学):唐代における潞州の位置-長治県梵境寺舍利銘をめぐって

5 肥田路美(早稲田大学):四川地域唐代石窟摩崖の銘文について

6 松浦 典弘(大谷大学):山西省の唐代の寺碑 山西現地調査の報告を兼ねて

第3部(15時15分-17時) 研究報告・自由討論

7 高橋継男(東洋大学):「中国石刻関係図書目録」その後の最新資料状況

8 気賀沢保規(明治大学):「大般若経」刻経から見た房山石経事業の展開

(10)また全体の成果報告書として、「中国仏教社会の基層構造の研究」および「中国仏教社会の基層構造」調査報告書をまとめた。

その他、明治大学東アジア石刻文物研究所の機関誌「東アジア石刻研究」を年一度刊行し

(3号=2011年3月、4号=2012年3月、5号=2013年3月)、毎年の調査報告を掲載した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 23 件)

気賀沢保規、房山雲居寺石経山所蔵の隋唐石経-「石経山九洞所蔵隋唐石経目録」の作成をめぐって-、東アジア石刻研究、3、pp.33-45、2011年、2011年、査読無

気賀沢保規、石経山九洞所蔵隋唐石経目録、東アジア石刻研究、3、pp.42-62、2011年、査読無

気賀沢保規、趙振華著『洛陽古代銘刻文献研究』所載墓誌等主要石刻資料目録、東アジア石刻研究、3、pp.93-96、2011年、査読無

気賀沢保規・高瀬奈津子・江川式部、山西省太原市並びに山西・西安地区仏教石刻調査報告、東アジア石刻研究、3、pp.78-87、2011年、査読無

気賀沢保規、中国南北朝隋唐期をめぐる仏教社会史研究の地平、佛教史學研究、53-1、pp.82-102、2011年、査読有

気賀沢保規、新発見彭方尊師墓誌及其鎮墓石 兼談日本明治大学所蔵墓誌石刻、唐史論叢、14、pp.69-80、2012年、査読無

気賀沢保規、新刊紹介・故宮博物院編『故宮博物院藏歷代墓誌彙編(故宮博物院藏歷代墓志汇编)』あわせて「所載資料目録」の紹介、東アジア石刻研究、4、pp.81 - 94、2012年、査読無

肥田路美、南北朝時代乃至唐代の瑞像の造形的特徴と意義、慶賀饒宗頤先生 95 華誕敦煌学国際学術研究会論文集、pp.66 - 70、2010年、査読無

肥田路美、奉先寺洞大仏和白司馬坂大仏、石窟寺研究(龍門石窟研究院刊)、創刊号、2、pp.130 - 136、2010年、査読無

肥田路美・李静傑・齊慶媛・陳紅師、太原永寧寺明代壁画阿弥陀仏四十八願図像考察、故宮博物院刊、147、pp.18 - 59、2010、査読無

肥田路美、The Current State of Japanese Research on the History of T'ang Art and Related Issues、ACTA ASIATICA、100、pp.21 - 39、2011年、査読無

肥田路美、四川省灌県靈岩山石經の拓本調査、東アジア石刻研究、4、pp.48 - 63、2012年、査読無

肥田路美、四川省夾江千仏岩の僧伽・宝誌・萬迴三聖龕について、早稲田大学大学院文学研究科紀要、58 - 3、pp.51-67、2013年、査読無

肥田路美、七・八世紀の仏教美術に見る唐と日本、新羅の関係の一断面、日本史研究、615、pp.53-78、2013年、査読無

高橋継男、唐代後期の 韋応墓誌 塩鉄転運江淮留後に関連して、東洋大学文学部紀要、66、pp.155~176、2013年、査読無

手島一真、中国山西・河北地域における北朝隋唐時代佛教石刻資料の実地調査報告(2011年1月実施)、東アジア石刻研究、3、pp.63-77、2011年、査読無

手島一真、中国山西・河北地域における北朝隋唐時代佛教石刻資料の実地調査報告(2011年8-9月実施)、東アジア石刻研究、4、pp.64-80、2012年、査読無

手島一真、山西綿山雲峰寺所蔵拓本『魏故曇鸞祖師造像記』の検討、立正史学、111、pp.55 - 75、2012年、査読有

桂華淳祥編・松浦典弘分担執筆、金元代石刻史料集 - 華北地域佛教関係碑刻 -、大谷大学真宗総合研究所研究紀要、28、pp.15 - 119、2011年、査読無

櫻井智美、元大都の東岳廟建設と祭祀、元史論叢、13、pp.20 - 30、2010、査読有

高瀬奈津子、遣隋使の歴史的意義と外交儀礼、孔子学院中日対照版、6、pp.20 - 23、2011年、査読無

江川式部、新刊紹介・趙振華著『洛陽古代銘刻文献研究』、東アジア石刻研究、3、pp.90 - 94、2011年、査読無

江川式部、新刊紹介・西安市長安博物館編『長安新出墓誌』、東アジア石刻研究、4、pp.105 - 110、2012年、査読無

〔学会発表〕(計 21 件)

気賀沢保規、唐代後期の“巡礼”と地方社会、中国中古社会与国家国際学術研討会(招待講演)、2010年6月12日、台湾・中興大学歴史系、

気賀沢保規、円仁石刻と古代の日中文化交流 法王寺釈迦舍利蔵誌の史料性と史実、平成22年度國學院大學文化講演会、2011年1月23日、國學院大學

気賀沢保規、石碑と歴史学、文化財保護と石碑の世界(関野貞プロジェクト)(招待講演)、2011年1月25日、東京大学東洋文化研究所

気賀沢保規、房山隋唐石經與《大般若波羅蜜多經》一試論大般若經刻經事業の歴史地位和意義(中文)「紀念房山石經開洞拓印55周年暨房山石經研討會」シンポジウム 2011年4月21日、中国北京市・房山雲居寺

気賀沢保規、唐「鴻臚井碑」の歴史的意義と内藤湖南、第60回東北中国学会、2011年5月28日、秋田大学

気賀沢保規、新発現の彭尊師墓誌及其鎮墓石 兼談日本明治大学所蔵墓誌石刻、「新出土唐墓誌与唐史研究」国際学術研討会、2011年9月3日、中国洛陽市・洛陽師範学院

気賀沢保規、百濟人祢氏墓誌の全容とその意義・課題、国際シンポジウム“新発見百濟人「祢氏(でいし)墓誌」と7世紀東アジアと「日本」”、2012年2月25日、明治大学

肥田路美、九世紀仏教彫刻の主題と図像 四川省夾江千仏岩摩崖為中心、東洋美術史学会国際学術大会、2012年10月13日、韓国ソウル・国立中央博物館

肥田路美、關於夾江千仏岩摩崖第91号三聖僧龕、《夾江千仏岩》首發暨四川唐代佛教造像学術討論会、2012年9月8日、四川省文物考古研究院

肥田路美、天龍山石窟唐代窟の尊像構成について、“龍山石窟龍山石窟”国際学術研討会、2012年9月14日、山西省天龍山石窟研究所

肥田路美、隋唐朝における仏教美術の諸州頒布と、日本への伝播、日本史研究会例会、「古代における国際秩序形成と仏教」シンポジウム、2013年2月24日、キャンパスプラザ京都

肥田路美、仏教美術における模倣の諸相と意味 スタイン将来「西域仏菩薩図像集」を題材に、第58回国際東方学学会議、2013年5月24日、日本教育会館

肥田路美、巴蜀石刻の保存・研究的国際意義 從日本研究者の視点出發、大足石刻芸術国際合作工作营、2014年3月31日、重慶・四川美術学院

高橋継男、唐後半期の巡院機構 度支・塩鉄転運巡院の設置点の検討を中心に、第50回白山史学会大会、2012年11月24日、東洋大学

手島一真、中國 中原 地域 北朝隋唐時期 佛教石刻調査報告 ~とくに山西省東南部、河南省東北部、河北省西南部について~、立正大学法華經文化研究所公開研究例会、2011

年6月29日、立正大学  
高瀬奈津子、唐代宦官墓志の修辞特点、学  
世界漢語修辞学会第二屆年會暨修辞学國際  
學術研討會(招待講演)、2010年7月29日、  
香港教育學院  
高瀬奈津子、文人としての楊炎、2011年國際  
修辞傳播學前沿論壇 語言文化教育与跨文  
化交流、2011年10月29日、札幌大学  
江川式部、唐代の遷葬、第59回東北中国学  
会、2010年5月30日、アソベの森いわき荘  
江川式部、中国史のなかの神と皇帝、国土  
館大学東洋史講演会(招待講演)、2010年11  
月17日、国土館大学梅ヶ丘校舎  
江川式部、唐代の家廟、第109回史学会東洋  
史部会、2011年11月6日、東京大学  
江川式部、唐の祭祀儀礼と太常寺、第34回  
立命館史学会、2011年12月11日、立命館  
大学

〔図書〕(計12件)

気賀沢保規、正史の中の仏教、新アジア仏教  
史07・中国 隋唐(興隆・発展する仏教)、  
佼正出版社、pp.332-335、2010年  
気賀沢保規、洛陽学國際シンポジウム報告論  
文集 東アジアにおける洛陽の位置、明治大  
学大学院文学研究科・明治大学東アジア石刻  
文物研究所、218頁、2011年  
気賀沢保規、明治大学東アジア石刻文物研究  
所蔵『中国洛陽出土唐代墓誌史料彙編』、  
東アジア石刻文物研究所、全400頁、2011年  
気賀沢保規、遣隋使がみた風景 東アジアか  
らの新視点、443頁+図版8頁、八木書店、  
2012年  
気賀沢保規、房山雲居寺石経大型題記資料集  
稿 「諸経題記」拓本・録文篇、明治大  
学東アジア石刻文物研究所、80頁、2012年  
気賀沢保規・肥田路美・手島一真等、中国  
中世仏教石刻の研究(編著)、勉誠出版、  
340頁、2013年  
気賀沢保規、「中国仏教社会の基層構造」調  
査報告書(編著)、明治大学東アジア石刻文  
物研究所、121頁、2014年  
気賀沢保規、中国仏教社会の基層構造の研究、  
明治大学東アジア石刻文物研究所、111頁、  
2014年  
気賀沢保規、房山雲居寺石経題記資料集稿  
「巡礼題記」拓本・録文篇、明治大学東  
アジア石刻文物研究所、150頁、2014年  
肥田路美、仏舎利の荘嚴具と迦陵頻伽盒、円  
仁と石刻の史科学、高志書院、pp.217-236、  
2011年  
肥田路美、初唐仏教美術の研究、中央公論美  
術出版、502頁、2011年  
高橋継男、中国石刻関係図書目録(2008-  
2012前半)稿、明治大学東アジア石刻文物研  
究所、107頁、2013年

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~ishiken/index.html> 明治大学東アジア石刻文物研究所

6. 研究組織

(1) 研究代表者

気賀沢保規(KEGASAWA YASUNORI)  
明治大学・文学部・教授  
研究者番号：10100918

(2) 研究分担者

肥田路美(HIDA ROMI)  
早稲田大学・文学学術院・教授  
研究者番号：00318718  
高橋継男(TAKAHASHI TUGUO)  
東洋大学・文学部・教授  
研究者番号：50125598  
手島一真(TEJIMA ISSHIN)  
立正大学・仏教学部・准教授  
研究者番号：20329006  
松浦典弘(MATSUURA NORIHIRO)

大谷大学・文学部・准教授

研究者番号：80319813

高瀬奈津子(TAKASE NATSUKO)

札幌大学・文化学部・准教授

研究者番号：00382458

櫻井智美(SAKURAI SATOMI)

明治大学・文学部・准教授

研究者番号：40386412

(3) 連携研究者

江川式部(EGAWA SHIKIBU)

明治大学・商学部・講師

研究者番号：70468825